

小城市市民協働をすすめるための行動指針(案)に関するパブリックコメント結果

	受付日	内容	市の考え方
1	12/16	<p><u>(1)今回の行動指針が市民が考える「協働」と合っているか疑問に感じます。地域は一つの地区でも戸数が 20 戸未満の所もあれば、住民流入が進み戸数が増えている所もあり、状況がまちまちです。</u> 人の暮らしに係る意識は急には変わりません。</p> <p><u>(2)この指針を見て、まず地域内での挨拶から始めて意思疎通をはかり、コミュニケーションを形成して発展的発想になることが大事であると感じました。</u></p> <p>学校で、子供を通わせているご家庭だけでなく、<u>(3)地域の方々が授業参観に参加したり、話し合いをできる場作りが大切だと思います。</u> 家庭は、個々に様々な問題を抱えており、「協働」を簡単に浸透させることはできません。</p> <p><u>(4)まず核となる組織やグループを形成して、そこにその周辺にいる人たちを寄り込んでくる体制づくりが必要であると思います。</u></p>	<p>ご指摘のとおり、人の意識を変えることは非常に難しいと思います。 このことから、本指針(案)においては、まず地域課題について地域に住む一人ひとりが関心を持ち気づいていただくこと、その気づいたことで自らできることはできる範囲で実行していただく。次に同じ思いを持つ仲間づくりを行いながら、協働の体制による取組みを段階的に広げていくことが出来ればということを表現しています。</p> <p>(1)基本的な「協働」の考え方は、小さな地区、大きな地区でも同じです。 それを踏まえて P16 に「協働が地域の諸課題を解決する手段」、P21 に「地域のスタイルに合う取組みを考える」ことを書いています。</p> <p>(2)ご理解いただいているとおりです。</p> <p>(3)学校と地域のかかわりの取組みの好事例を参考にさせていただくため P19,20 に示しています。</p> <p>(4)P23 に「地域内での取組み」として『(前略)市民同士隣近所で話し合い(井戸端会議など)を行い、「みんなでやる」という連帯感とお互いさまの意識を持ち、共通の認識を深めていく機会を増やしていく必要があります。そのことにより、個々の考えと理解が進み、目的を達成するための組織化や、それぞれの活動が地域の力として結集することとなります。』と示しています。</p> <p>なお、本指針は、より具体的かつ分かりやすさを重視しイラスト化し、視覚的に理解できるよう努めております。この行動指針は、地域課題を解決する手段として又よりよいまちづくりの手段として“協働”の必要性を感じていただき、生活の中で少しでも意識してできるところから協働の取組みを実践していただくためのものとして作成しています。</p>

